

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 3月31日現在

機関番号：57701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22652032

研究課題名（和文） 比喩の枠組みモデルを用いたドイツ詩のテキストデータベース研究

研究課題名（英文） Construction and use of the plain text database using the frame-words model in the metaphorical expression

研究代表者

保坂 直之 (HOSAKA NAOYUKI)

鹿児島工業高等専門学校・一般教育科文系・教授

研究者番号：80280501

研究成果の概要（和文）：

季節感を表す語が詩的テキストの色合いを決めることは、日本の定型詩になじんでいる我々の共通理解である。本研究では電子化されたドイツ詩のデータを集約し、「～のように」などの指標のある比喩イメージとの複合検索によって、詩的表現の気配を支配する「枠組語」のリスト化を目指している。テキストベースの集約データは自由な処理が容易なため、統計処理よりも「解釈上の思いつき」の適否をその都度確認しながら、通常の読みではできない読み方のための補助に使いやすい。本研究はそのための検索手法も追求している。

研究成果の概要（英文）：

It is well aware that the words which express mood and feeling of the seasons often shape the nuance of the poetic text, since we are familiar with the Japanese versification with season words more or less. In the present study, I tried out to gather the digitized texts of German

poetry from various eras in a handy modified text format as "Text-Databank", and then to make the list of the poetic frame-words which affects the mood of poetic texts. The searching operation was carried out by using two search terms: the possible frame-words and the visible parts of direct metaphorical expressions such as a preposition "like".

The poetic texts in the plain text database can be operated very easily and flexibly, because they are in simple format and have little amount of data. Hence, we can examine the validity of a certain hypothesis or interpretation immediately with the help of the search in the stored texts.

In this study I intend to develop search methods in stored text data, so that we can clearly explain the poetic text.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	600,000	0	600,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	180,000	1,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：テキスト、データベース、比喩、文彩、ドイツ語、共起、季節、自然、

1. 研究開始当初の背景

近年の情報処理技術の発展によって、電子化されたさまざまなテキストを文学研究に利用できるようになった。この10年来進めているヘルダーリン、トラークル研究においても、電子ファイルの検索作業が容易である強みを生かして、18世紀末以降のドイツ詩におけるWie-比喩・Als ob-比喩（直喩）、つまり検索をしやすい、指標を持つ比喩表現をデータとして集め、そこで得た知見を従来のな文体研究に間接的に利用することができた。研究題名の「テキストデータベース」という語は、正規表現などを用いた自由で柔軟な処理のために構築された、テキストファイルベースでの集約データを指す、樋口忠治氏（元九州大学）が提案した用語である。

しかし、下記の問題点が改善されない限り、電子ファイル検索も使用語彙頻度の分析ができるだけ、に終わってしまうであろう。

(1)電子テキストの処理は「文字列」の処理に過ぎず、「意味」は検索処理できない

(2)検索結果のサンプルは膨大になるが、絞り込む手段は恣意的になる（研究手段の蓄積がまだ少ない）

2. 研究の目的

本研究は上記の背景を踏まえて、テキストファイルとして蓄積されたドイツ詩データを文学研究に生かす方法の確立を目指したものである。比喩表現を、地の色（コンテキスト）を方向付ける「枠組語」と、比喩表現の「媒体」（「BのようなA（A wie B）」におけるBの要素）との相互影響作用と仮定して、テキストデータベースから枠組語と媒体のそれぞれを集めて一覧化し、双方のand検索によって相互作用効果の高い詩的比喩を拾い上げる。

比喩という文彩を扱うに際しては、ブラックの「枠組み(frame)」と「焦点(focus)」からなる比喩モデルに着想を得ている。詩的表現を背景色として規定する「枠組語」の一覧化を長期的な目的としつつ、更には「枠組語」を手掛かりにした相互検索により、「文字列」ではなく「意味」を検索する可能性を探る。

途中経過的には、検索作業を実際に行いながら様々な詩人の詩的文体論を発表する。研究期間中には、特に以下の点を明らかにする。

(1)仮に設定した「枠組語」の妥当性を検証しながら数を増やしていく。

(2)私設のドイツ詩テキストファイルによるデータベースを拡充する

(3)「枠組語」と「wie...」などの指標のある「媒体」を利用した複合検索を、(2)のデータで実行する

(4)作業を通じて集めた比喩表現を整理・分析し、比喩文彩論を中間報告的に発表する。

3. 研究の方法

【1】テキストデータベースを拡充する作業：
(1)インターネット上あるいはCD-ROMで公開されている（著作権等の問題のない）ドイツ詩のデータ（Projekt Gutenberg-DEのジャンル Gedichte, Deutsche Lyrik von Luther bis Rikle. Digital Bibliothek等）をテキストファイル化して整形し、ドイツ詩のテキストデータベースの拡充を図る。

(2)wieと結ぶ語句を全データから一括検索で抜き出し、比喩イメージの語彙表を作っていく。そうした作業をスクリプト言語で一括処理できる環境を整える。

【2】「枠組語」を想定しながら（wieなどと結ぶ）媒体」の語（句）と複合検索する作業：

文脈を指示する「枠組語」として、以下の語彙を仮定し、Wie-比喩の媒体との複合検索をしながら有効な語のリスト化をさらに進める：

A: 全体として検討する語彙：

(1)四季:Frühling, Sommer, Herbst, Winter, およびその派生語と連想される語彙 (Herbstであれば, fallen, Stoppel, Sicheln, Sensen, Ernte, abgeschlossen, gold, trocken など)

(2)一日の中の時間帯:Morgen, Abend, Nacht など、及びその派生語と連想される語彙

(3)公園、教会、墓地、橋、庭、家などの都市の景物の語彙

(4)山、川、野(Feld)、木、花などの単純な自然形象の語彙

(5)植物の名称

B: 「枠組語」の検索と平行して、詩の文脈を支配する下記の発想の比喩に連なる比喩イメージ・語彙も探す：

(6)動植物と事物、生物と無生物などの区別を取り払う

(7)時間的推移を取り払う（過去の現前化など）

(8)大きいと小さい、広いと狭い、などの対立形象をわざと同じと見る（提喩の表現）

【3】語彙の検索作業を通して、感情に働き掛ける特定の文彩パターン（全体と部分の無区別、生と死の無区別のパターンなど）の抽出を目指す。

4. 研究成果

(1) テキストファイル・データベースの拡充と検索方法・テキスト整形方法の確立について：

電子化されてインターネット上に置かれ、自由に閲覧・加工が可能なドイツ詩を「一つの詩作品を一つのファイル」として蓄積した。検索作業の際に詩人名・作品名・ファイルの置かれたフォルダが不明にならないように、ファイルのパス名を含む形を基本形としてテキストファイルの整形作業を行った。テキストエディタのマクロ処理や Perl のスクリプト処理を使った結果、整形したファイルの総数は 11000 程度となり、それを各詩人毎(重要なものは詩集・詩群毎のサブフォルダ)のフォルダに整理してある。著作権についてなどの問題が生じないよう対応したうえで、今後これらの資料は公開して誰でも利用できるようにしていく。

容量の少ないテキストファイルは自由な加工・処理が容易であり、あるフォルダにまとめた詩作品のすべてを一つのファイルに置かれた語彙の塊にしてしまう、などの乱暴な操作も誰でも簡単にできる。数千の語彙を一つ一つ改行させたデータをエクセルまたは unix 上で操作して並べ替え、語彙の傾きを概観する、などの通常の「読み」では不可能な読み方が瞬時に可能になる。テキストファイルベースは単純であるがゆえに自由な操作が可能であるため、一時的な作業フォルダの構成をさまざまに変えながら操作できる。現状のファイル数でも、ドイツ詩小コーパスとしてのある程度の利用が可能になったが、同じ加工処理の方法を使って更にファイル数を拡充していくことが今後とも可能である。

テキストファイルベースでの集約データを利用する方法では、「ちょっとした思いつき」をその都度確認して、作品の解釈に役立てることに適している。ヘルダーリンの後期讃歌で用いられている entlaubt という語をライン讃歌に似た詩でトラークルが使うが、本研究で構築した 1 万程度の詩作品テキストの塊の中でもこの語は思いの外使われていることがわかると、この語をもって二人の詩人の影響関係を論ずるのは言い過ぎである、というような判断が容易である。また、Bahnhof (駅) は 1800 年代後半から用いられるが、表現派の詩人は余り使わない、ということが目で見て確認できると、20 世紀初頭の詩人が機械文明に対してむしろ距離をとる立ち位置にいたことについて、確信を持って論ずることが出来る。データを分析して統計結果を導き出す、語彙の出現頻度をグラフ化する、という研究も一つの重要な方法だが、検索作業というものを「読み」を補助するための道具的手段として実際に生かすこと

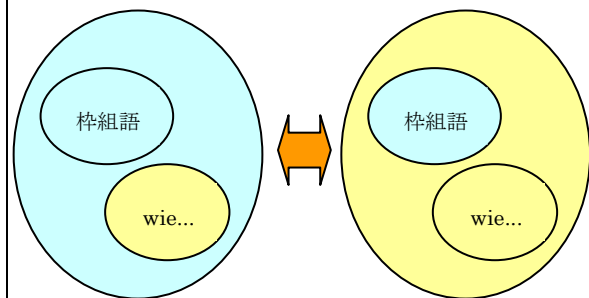
が、テキストファイルベースでのデータ集約の主目的である。こうした道具的補助を可能にする基盤を作ることが出来たので、今後はデータ数をさらに増やしながら活用する手段についても広めていくつもりである。

トラークルのテキストデータを使い、こうした補助手段としての検索を実際に使用する実例として、第 2 詩集『夢の中のセバスティアン』を構成する 5 つの連作詩群 (Zyklus) 毎に、その詩群の詩に共有の語があること、編集の最終段階でトラークルが詩集の末尾に近い位置に差し込んだ詩 Abendland が第 1 Zyklus を意識した語彙で構成されていることを、途中経過的に口頭発表し、また論文において論じた。

(2) 枠組語の「仮」リスト拡充と、そのリストを使った検索による成果について：

ブラックは「枠組み (frame)」という概念を使って、比喻の相互作用を、「比喻するもの」「比喻されるもの」という二つの構成要素の関連ではなく、「語」と「文脈」との関連として定式化を試みている (『創造のレトリック』佐々木健一編・勁草書房 1992、5 頁)。例えば、「季節は大判の本のように大胆に頁を開き」(森内俊雄『酔芙蓉』) という直喩の「媒体」(A wie B の B) である「大判の本」が夏を主意とすると理解できるのは、「季節」という枠組み=文脈の内に比喻が置かれているからであり、ブラックのモデルでは「季節」というフレームと、その枠内でスポットライトが当たる「焦点 (focus、ここでは画集を思わせる本)」との関連が比喻表現の意味機能である。

本研究では「枠組語」(季節) に対して媒体も影響を与え、開放的な夏の気配や画集に描かれる風景の静的な美の気配が、その「季節」にも投影されるという双方向的な作用に比喻表現のイメージ喚起力を見ている。



上記図版の、右図と左図とが常に入れ替わり続ける流動性が、印象的な詩的比喻の本質である。この美的比喻モデルの正当性を確認するために、まず「枠組語」を一覧化し、指標のある比喻イメージとの相互検索を網羅

的に行う基盤を作ることを目指した。

国内外の詩作品アンソロジーを利用して、
比喩表現の「地」の色を気配、雰囲気として
規定する「枠組語」の候補として、季節感の
ある自然形象の語彙を収集して仮のリスト
を試作した。「季節」に焦点を合わせたのは、
「歳時記」のような日本語の詩的語彙のトポ
スをドイツ詩の語彙の整理に援用できない
かと考えたためである。四季の「枠組語」を
通してトラークルのデータを調べると、秋の
没落のイメージに浸されているかに見える
トラークルの作品群であるが、四季を通じた
季節の語彙が均等に拡散していることがわ
かる。「水 (Wasser)」、「火 (Feuer)」、「大気・
風 (Luft, Lüfte)」などの自然の基本語と共
起する wie に導かれた語彙を拾い出すため、
いくつかの詩人のフォルダでこれらの語を
含む詩作品ファイルを拾い出し、一つのファ
イル上に置いて語彙をリスト化し、ここから
wie を伴う比喩イメージを拾い出した。トラ
ークルの場合はいくつかの色彩語と共起関
係のあるイメージが多くの研究で指摘され
ているが、簡便に作れるこうした語彙のリス
トによって指摘される共起関係も目で見て
確認できる。

また、ターゲットとした「枠組語」を含む
詩の語彙のリストは、その語と詩作品におい
て共起していた語彙を網羅的に示すもので
ある。本研究期間終了後も、この語彙集を照
らし合わせながら「枠組語」のリストを広げ
ていき、将来的には我が国における「歳時記」
のような、詩的な気配をテキストに持ち込む
トポスの一覧へと拡充していく。

「枠組語」と共起する比喩イメージの語を
拾い出すため、私設のテキストファイルによ
る詩のデータ群の利用に合わせた二語同時
にフォルダ内一括検索する Perl のスクリ
プトを作成した。本研究でこのスクリプトはツ
ールとして実際に使用していたが、汎用的な
プログラム足りうる安定性は十分検証して
いないため、今後も引き続き処理の精度を上
げるようにスクリプトの記述を修正してい
く。

(3) 都市インフラに関連する「枠組語」とい
う問題点が明らかに：

語彙のリストを作りながら検索作業を進
める過程で、自然形象という伝統的な詩語で
はなく、都市インフラに関連する語彙、例え
ば「路面電車 (Straßenbahn, Tram)」、「地下
鉄 (U-Bahn)」、「駅 (Bahnhof)」などは詩語
として用いられていないことが見て取れた。
ベルリン、ウィーンなどの大都市では高架や
地下を利用した公共交通のネットワークや
街灯の電化などは 20 世紀初頭には完全に済
んでいるが、この時代の表現主義の詩人等の
作品にはこうした都市基盤に係わる語彙は

目立たない。都市生活者が日々使う都市基盤
である以上、感情世界とも結びつくはずだが、
「鉄道網」に係わる詩行はあったとしても 18
世紀ロマン派以来の都市文明への懐疑に連
なる批判的イメージによるものである。

派生的に明らかになったこの傾向性につ
いてはポエジーという表現形態に拠るもの
である可能性もあるため、まず同時代の散文
作品 (ダブリンなど) のテキストファイル
を処理可能なデータにして、ベルリン表現派
の詩作品と使用語彙の比較・検討を行い、大
きな研究テーマになり得るかを判断していく。
この問題は、本研究が「枠組語」を仮定した
ときに、日常使われるすべての語が「枠組語」
になるのではなく、詩作品という傾向に知
った傾きがあるはずである、という想定の一
つの表れであると考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕 (計 1 件)

① 保坂直之、連作構造としての『夢の中のセ
バステイアン』(6) — 体験と提喩と人物形象、
高専ドイツ語教育、査読有、13 巻、2011 年、
73-88

〔学会発表〕 (計 3 件)

① 保坂直之、ルートヴィヒ・フォン・フィッ
カーの Rauch Villa とトラークル、トラーク
ル協会 2012 年度春季研究発表会、2012 年 5
月 19 日、雑司が谷地域文化創造館 (東京都
豊島区)

② 保坂直之、トラークルの「連作詩」
Abendland、第 63 回日本独文学会西日本支部
学会、2011 年 12 月 3 日、熊本大学 (熊本市)

③ 保坂直之、比喩の枠組みモデルを用いたド
イツ詩のテキストデータベース研究、高専ド
イツ語教育研究会 2010 年度研究発表会、2010
年 5 月 28 日、東京ドイツ文化センター (東
京都港区)

〔図書〕 (計 0 件)

〔産業財産権〕

○ 出願状況 (計 0 件)

○ 取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等：

<http://repand.kagoshima-ct.ac.jp/repand/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

保坂 直之 (HOSAKA NAOYUKI)
鹿児島工業高等専門学校・
一般教育科文系・教授
研究者番号：80280501

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：